

説教余滴 星野富弘さんの詩 2017年11月12日

本日は田浦教会の家族礼拝です。今まで、一度もお話したことがない星野富弘さんの事をお話します。きれいな絵を描き、言葉を添えられます。いくつかの詩をご紹介します。

ほんとうのことなら 多くの言葉はいらない  
野の草が 風にゆれるように  
小さなしぐさにも 輝きがある

川の向こうの紅葉が  
きれいだったので  
橋を渡って行って見た  
ふり返ると  
さっきまでいた所の方が  
きれいだった

この道は茨(いばら)の道  
しかし茨にも  
ほのかにかおる花が咲く  
あの花が好きだから  
この道をゆこう

花が上を向いて咲いている  
私は上を向いてねている  
あたりまえのことだけれど  
神様の深い愛を感じる

いつか草が 風に揺れるのを見て  
弱さを思った  
今日 草が風に揺れるのを見て  
強さを知った

星野さんは、1946年4月24日の生まれ。群馬県勢多郡東(あずま)村の小・中学校を卒業。県立桐生高校、群馬大学教育学部保健体育科を卒業。高崎市立倉賀野中学校に体育教師として就任。2か月後、クラブ活動指導中、首の骨を折る公務災害。9年間、闘病、首から下が動かない状態で退院。入院3年、大学の先輩・クリスチャンが三浦綾子さんの『塩狩峠』を勧められる。